

## カンボジア 2008 年人口センサス速報結果の概要

### はじめに

総務省統計局、総務省統計研修所、独立行政法人統計センター及び財団法人日本統計協会が中心となって支援しているカンボジア 2008 年人口センサス(国勢調査)に対する技術協力「カンボジア政府統計能力向上計画フェーズ2」については、本誌平成 20 年 7 月号で紹介したので、ここでは、その概要の記述は省略する。本号では、調査実施から丁度半年後に公表された速報結果の概要を紹介する。

2008 年 9 月 3 日、カンボジア 2008 年人口センサスの速報結果の公表式典が首都プノンペンで開催され、各省庁や各州の幹部職員等約 300 名が列席し、カンボジア副首相により公表された。また、同 11 日には、「速報結果利用促進セミナー」も首都プノンペンで開催され、各省庁や各州の統計担当職員等約 200 名が参加した。このことから、カンボジアにおける人口センサスに対する期待の大きさがうかがえる。

公表された速報結果(和訳)は、すべて下の総務省統計局のページに掲載されている。

[http://www.stat.go.jp/info/meetings/cambodia/pdf/pre\\_rep1.pdf](http://www.stat.go.jp/info/meetings/cambodia/pdf/pre_rep1.pdf)

### 1. 人口センサスの概要

調査は、2008 年 3 月 3 日午前 0 時現在で実施された。調査方法は、その時点で居た場所で調査する現地主義(de facto)に基づいている。調査対象は、カンボジア国内に居住するすべての人(外国人を含む)であり、一般世帯のほか、ホテル滞在者、病院や刑務所などの施設への入所者、ホームレス、水上生活者なども含まれる。前回の 1998 年人口センサス時には、一部地域が内戦状態にあったため、それらの地域の調査はできなかったが、今回は、すべての地域で調査が円滑に実施された。

### 2. 全国の結果の概要

速報結果は、男女別人口及び世帯数が調査区別に記入されている Form2(調査区別要計表)を集計したものである。したがって、その主な内容は、全国・州別や都市部・郡部別の男女別人口、人口密度、人口増加率、性比、世帯数、1 世帯当たりの世帯人員などとなっている。

カンボジアの2008年の全国人口は約1339万人となっており、1998年と比較すると約195万人増、人口増加率は1.54%（年間平均）であった。一方、東南アジア諸国の平均人口増加率は、1.3%（年間平均）となっており、カンボジアの人口増加が比較的高いことがわかる。また、人口密度は、75人/km<sup>2</sup>となっており、1998年の64人/km<sup>2</sup>と比べると、人口増加に比例して高くなっている。（表1-1参照）

次に、1世帯当たりの世帯人員（一般世帯人員/一般世帯数）をみると、4.7人となっており、1998年の5.2人と比べると、カンボジアの世帯規模が縮小しつつあることがわかる。これは、近年、従来の大家族から、様々な理由で徐々に核家族へと移行しているためである。例えば、結婚した後、子どもが両親とは別々に住む傾向にあること、また、出稼ぎ等のために、家族が離れ離れになって暮らさなければならないことなどが挙げられる。（表1-2参照）

表1-1 カンボジアの男女別人口、人口密度 - 全国（2008年、1998年）

	2008年	1998年	1998-2008年
	(人)	(人)	(人)
人口	13,388,910	11,437,656	1,951,254
男	6,495,512	5,511,408	984,104
女	6,893,398	5,926,248	967,150
人口密度(人/km <sup>2</sup> )	75	64	11

表1-2 カンボジアの世帯数、1世帯当たりの世帯人員 - 全国（2008年、1998年）

	2008年	1998年	1998-2008年
世帯数（世帯）	2,832,691	2,188,663	644,028
世帯規模（人/一般世帯）	4.7	5.2	-0.5

出典：カンボジア2008年人口センサス 速報結果  
 暫定分析表2.1 カンボジアの人口の推移（P6）  
 暫定表1 世帯数及び男女別人口-全国、州（2008年）（P25）

その次に、注目すべき性比（男性人口/女性人口×100）をみると、94.2となっており、1998年の93.0と比べると、回復しつつあることがわかる。というのは、表2のとおり、1962年には99.9であった性比が、1980年には86.1まで落ち込んだ。これは、「カンボジアの大虐殺」と呼ばれるポル・ポト政権（1975年～1979年）による反体制派の大量虐殺が原因であり、当時の悲惨な状況を如実に物語っている。その後、性比は徐々に回復し、30年という長い歳月を経て、94.2まで回復してきたことがわかる。ちなみに、我が国の性比は、95.3（2005年）である。（表2参照）



表3 . 州別人口 上位・下位5州

(単位:人)

上位5州		下位5州	
コンボン チャム州 (Kampong Cham)	1,680,694	ケップ特別市 (Kep)	35,753
プノンペン特別市 (Phnom Penh)	1,325,681	モンドル キリ州 (Mondul Kiri)	60,811
カンダール州 (Kandal)	1,265,085	パイルン特別市 (Pailin)	70,482
バットアンボン州 (Battambang)	1,024,663	ストゥントゥレン州 (Stung Treng)	111,734
プレイ ヴェン州 (Prey Veng)	947,357	コッコン州 (Koh Kong)	139,722

出典：カンボジア 2008 年人口センサス 速報結果  
暫定表1 世帯数及び男女別人口-全国、州(2008年) (P25)

次に、人口密度を州別にみると、最も高い州は、プノンペン特別市(4,571人/km<sup>2</sup>)で、以下順に、カンダール州(355人/km<sup>2</sup>)、タケオ州(237人/km<sup>2</sup>)、プレアシアヌーク特別市(230人/km<sup>2</sup>)、プレイヴェン州(194人/km<sup>2</sup>)となっており、プノンペン特別市が抜きん出て高くなっていることがわかる。ちなみに、プノンペン特別市の人口密度は、我が国の大阪府の人口密度とほぼ同じであり、いかにプノンペンに人口が集中しているかがうかがえる。このことから、カンボジアは、開発途上国ではよく見られる首都一極集中型の人口分布であることがわかる。また、上位5州は、すべてカンボジア南部の州であり、カンボジアの人口分布は、南高北低であるともいえる。(表4参照)

表4 . 州別人口密度 上位・下位5州

(単位:人/km)

上位5州		下位5州	
プノンペン特別市 (Phnom Penh)	4,571	モンドル キリ州 (Mondul Kiri)	4
カンダール州 (Kandal)	355	ストゥントゥレン州 (Stung Treng)	10
タケオ州 (Takeo)	237	プレア ビシア州 (Preah Vihear)	12
プレア シアヌーク特別市 (Sihanoukville)	230	コッコン州 (Koh Kong)	13
プレイ ヴェン州 (Prey Veng)	194	ラタナキリ州 (Ratanak Kiri)	14

出典：カンボジア 2008 年人口センサス 速報結果  
暫定分析表 2.6 人口密度-全国、州 (P14)

その次に、人口増加率（年間平均）を州別にみると、最も高い州は、パイリン特別市（11.24%）で、以下順に、オッドミンチェイ州（8.62%）、モンドルキリ州（6.29%）、ラタナキリ州（4.65%）、プレアビヒア州（3.59%）となっており、前述の人口や人口密度とは逆に、すべてカンボジア北部の州で人口増加率が高いことがわかる。その理由として、パイリン特別市やオッドミンチェイ州では、大規模な地雷除去活動が行われていること、プレアビヒア州では、道路建設が行われていることなどから、多くの男性労働者がこれらの州に転入していることが挙げられる。一方、人口増加率の低い州をみると、すべてカンボジア南部の州となっている。このことから、人口の多いカンボジア南部から人口の少ないカンボジア北部へ、前述のような仕事を求めて、人口が流れている可能性があることがわかる。（表5参照）

表5．カンボジア州別年間平均人口増加率 - 上位・下位5州（2008年）

（単位：%）

上位5州		下位5州	
パイリン特別市 (Pailin)	11.24	プレイ ヴェン州 (Prey Veng)	0.01
オッドミンチェイ州 (Oddar Meanchey)	8.62	スヴァイ リエン州 (Svay Rieng)	0.09
モンドルキリ州 (Mondul Kiri)	6.29	コンボン チャム州 (Kampong Cham)	0.44
ラタナキリ州 (Ratanak Kiri)	4.65	コッコ州 (Koh Kong)	0.56
プレアビヒア州 (Preah Vihear)	3.59	タケオ州 (Takeo)	0.66

出典：カンボジア2008年人口センサス 速報結果  
暫定分析表2.2 人口増加率-全国、州(1998-2008) (P8)

最後に、性比を州別にみると、最も高い州は、パイリン特別市（105.5）で、以下順に、モンドルキリ州（104.9）、コッコ州（102.3）、ラタナキリ州（102.2）、オッドミンチェイ州（101.0）となっており、ほとんどがカンボジア北部の州である。一方、性比が低い州をみると、すべてカンボジア南部の州となっている。このことは、前述の「人口の多いカンボジア南部から人口の少ないカンボジア北部へ男性労働者が流れているという可能性」を裏付けるものである。

カンボジア北部は、隣国のベトナム戦争やカンボジア国内の内戦の影響が強かった地域であり開発が遅れていたが、近年の経済発展に伴い、インフラ整備や地雷除去活動などという形で雇用を創出し、カンボジア南部から男性労働者が流入することで人口増加率が高くなり、また、性比も上昇している。

一方、カンボジア南部は、北部への男性労働者の供給源となっているため、人口増加率も性比も低くなっている。さらに、プノンペン特別市及びカンダール州、特にそれらの都市部には、被服縫製工場で仕事をする多くの若い女性労働者が転入しており、性比の低下に拍車をかけている。（表6参照）

表6 . カンボジア州別性比 - 上位・下位5州 (2008年)

上位5州		下位5州	
パイリン特別市 (Pailin)	105.5	フンベン特別市 (Phnom Penh)	88.4
モンドル キリ州 (Mondul Kiri)	104.9	プレイ ヴェン州 (Prey Veng)	91.2
コッコン州 (Koh Kong)	102.3	スヴァイ リエン州 (Svay Rieng)	91.8
ラタナキリ州 (Ratanak Kiri)	102.2	コンボン チュナン州 (Kampong Chhnang)	92.3
オッドミンチェイ州 (Oddar Meanchey)	101.0	カンダール州 (Kandal)	93.1

出典： カンボジア 2008年人口センサス 速報結果  
暫定表1 世帯数及び男女別人口-全国、州(2008年) (P25)

おわりに

本号では、公表された速報結果のうち、人口を中心とした主要な結果のみを紹介したが、このほか、都市部・郡部別や高原地域・山岳地域別などの分析結果も含まれており、カンボジアという国の正確な姿が表わされている。

今回の速報結果の公表は、先述の技術協力プロジェクト「カンボジア政府統計能力向上計画フェーズ2」にとって、未だ通過点の1つではあるが、1つの大きな成果として挙げることができる。また、筆者にとっては、速報結果の公表式典や結果利用促進セミナーへの出席は、統計がいかに重要なものであるかを再認識させられる良い機会でもあった。

本年9月には、確報結果の公表が予定されている。この確報結果には、調査票上のすべての調査事項に関する詳細な結果が含まれているので、カンボジアの今後の社会経済政策を立案する上で、重要な基礎資料となり、注目されるところである。